

20012

PTAV 施行中に INOUE balloon が破損した症例を検討、考察し報告する。

【目的】PTAV 施行中に INOUE balloon(INB)が破損した症例を検討、考察し報告する。【治療経過】Severe AS(最大圧格差 100mmHg)により循環動態が破綻した心不全患者に対し、PTAV を施行する事となった。左房内に血栓があった為逆行性 approach を選択、10mm と 14mm の balloon から大動脈弁(A 弁)を拡張し、次に balloon (10mm/14mm)で DBT(Double Balloon Technique)したが A 弁圧較差は改善しなかった。血管蛇行が強く INB 用のシースを根元まで挿入できなかった為、INB が A 弁まで到達しなかった。その為、シースを抜き Bare で INB を挿入し A 弁を拡張した。2 度の拡張でバルーンメッシュ部の破損を認めたが、A 弁圧格差は 30mmHg と改善していたことから手技終了とした。【考察】今症例では、INB の破損を経験した。原因としては 1. 逆行性で蛇行の強い動脈硬化の中を Delivery した事による可能性。2. INB の使用方法上での問題点。3. A 弁の石灰化が強かった事による破損の可能性。この 3 つの事が原因で INB が破損したと考えられた。破損の対策としては、INB 拡張時の透視画像を注意深く見て balloon の破損の有無を確認する事が重要と思われた。